

〔完了評価〕  
課題名 デュロック種系統造成豚を活用した肉質向上試験（平成26～30年度）

【課題の概要】  
国内の養豚経営は、豚価の低迷や輸入豚肉との競合、畜産環境問題等の生産環境の変化により自給率は50%台まで低下している。今後も飼料原料の海外依存、輸入豚肉との競合等が続くことが予想されている。しかし、依然として消費者ニーズは、安全で安心できる、おいしい国産豚肉を求めている。  
一方、国内では有利販売を目的とした銘柄豚肉の生産等の産地間競争が激化しており、特色のある豚肉生産が強く望まれている。  
一般に、肉豚は三元交雑豚（LW・D等）が利用されており、雄系であるデュロック種は産肉性に優れ、その能力が肉質に大きな影響を及ぼしている。当所では、筋肉内脂肪含量の向上を目的にデュロック種の系統造成を行い、平成28年12月に造成を完了した（「ローズD－1」）。  
本研究では、筋肉内脂肪含量が高い特色のある豚肉の生産を目的に、系統造成中のデュロック種および「ローズD－1」を用いて、肉質への影響を調査した。また、給与飼料等によって筋肉内脂肪含量を効果的に増加させる飼養技術についても併せて検討した。  
その結果、筋肉内脂肪含量は、LWの1.7%に比較して、全体で3%前後まで増加しており、筋肉内脂肪含量の向上を主眼に造成された「ローズD－1」を利用することで、より高品質な豚肉生産が可能となることが明らかとなった。また、飼料の銘柄や栄養水準等、給与飼料による効果については、顕著な差は認められなかった。

【評価結果】（評価委員数 4名）  
○各項目の評価（各評価委員の平均点）

研究目標の達成度・副次的効果	成果の意義・波及効果	成果の普及性・発展性	合計点
4.3	5.0	5.0	14.3

○総合評価 5：良好  
（1：不良 2：やや不良 3：普通 4：やや良好 5：良好）

【委員の意見・助言と対応策】		
評価項目	意見・助言	
研究目標の達成度・副次的効果	・遺伝的な能力が十分向上した新系統が造成できたと判断する。 ・しかし、世代を重ねるにつれ、筋肉内脂肪含量のパラツキが大きくなり、最頻値が低い方に移動していることが気になる。	
成果の意義・波及効果	・新ブランド豚肉生産を可能とし、県内の農家の期待も高いと判断する。	
成果の普及性・発展性	・今後の広告戦略により、その需要は拡大すると思われる。	
総合評価	意見・助言	対応策
	・D－1を活用した「常陸の輝き」ブランド確立のために、さらなる改良を進め、パラツキの少ない、高品質な種豚供給と、筋肉内脂肪含量の簡易測定方法の開発をお願いしたい。 ・豚コレラの拡大が懸念材料だが、防疫体制をしっかりとって、安全かつ安定的な維持を図って欲しい。	・能力の高位平準化を目的とした新たな課題に取り組んでおり、より高品質な種豚生産が可能となるものと思われる。 筋肉内脂肪含量の非破壊検査に関する技術開発に呼応した取組を検討する。 ・防疫対策をより徹底すると共に、安定した維持・増殖に努める。